□青空澄色の空の下で ～お泊り足湯デートと初うぶえっち～

名前

渚（なぎさ） 青空（あすみ）澄

性格

おとなしい清純な女の子。特に趣味を持っていないことを気にしています。弟がいるので世話焼きでお母さんのような包容力ももっています。何でもすぐ許し人を本気で憎むことができない優しさを持っています。先輩に恋する乙女。先輩に対してはなるべく積極的になろうとしています。性の知識は簡単なことなら。まだ未経験。感じやすい体質ですが恥ずかしがり屋さん。

シナリオ

渚（なぎさ） 青空（あすみ）澄が先輩に告白←デート←先輩のおうちデート←お泊りデート足湯であたまなでなで←足湯で耳かき耳舐め←えっち

マイクの位置

右

後ろ　頭　正面

左

基本的に声優様からマイクを見ての位置の指定になり

ます

作品の目的

渚（なぎさ）　青空澄（あすみ）の可愛らしさでリスナー様を魅了することを目的としています。

癒しパートでは包容力のある可愛らしさでリラックスさせることを目的にしています。

エッチパートでは最初はうぶな反応で魅了し、ストーリーが進むとどんどん恥ずかしがりながらも感じていきリスナー様を吐息と嬌声で虜にすることを目的にしています

嬌声シーンのお願い

青空澄（あすみ）はまだエッチに不慣れですので恥ずかしさを我慢した、ゆっくりとした吐息中心のあまい嬌声でおねがいします。

突発的な刺激や高まってくると思いっきりエッチな声でお願いいたします。

なるべくマイクとの距離と近づけて甘い吐息をかけるていただけると助かります。

青空澄「はぁ…はぁ…あ…はぁ」

はぁは無声での吐息でお願いいたします。

青空澄「はぁん！」

はぁん！は無声ではない嬌声になります。判断に迷う箇所がある場合は声優様のご判断でお任せいたします。

先輩が真後ろから愛撫するシーンではマイクに背を向けて演技をお願いいたします。

マイクの位置について

判断に迷ったところは声優様のご判断で動きをつけていただけますと助かります。

細かく書きましたがあくまでも当方のイメージを伝えるためであり、声優様に思い切って楽しく渚（なぎさ）　青空澄（あすみ）を演技していただければ幸いです。

□青空澄、先輩に告白します

シーン：どこかの屋上

告白シーン

マイクの位置：正面　おまかせ

青空澄「先輩…あの」

青空澄「えっとですねえへへ」

青空澄「い、いい天気ですね」

青空澄「あ、ちょっと曇っちゃってますか」

青空澄「すいません…」

青空澄「ん、んん」

青空澄「先輩…あの」

青空澄「す、す…」

青空澄「好きな食べ物は何でしょうか？」

青空澄「あ、はい、すし…わ、私も好きです！」

青空澄「えへへ」

青空澄「…」

青空澄「ん」

青空澄「…」

青空澄「えっと」

青空澄「せ、先輩」

青空澄「う…」

青空澄「ん…」

青空澄「す…」

青空澄「す…！」

青空澄「スイカなんて美味しいですよねえへへ」

青空澄「うーー」

青空澄「ううーー」

青空澄「え？　あ…本当だ…少し晴れてきましたね…」

青空澄「青い空…あ、私の名前も青空って含まれているんですよ」

青空澄「えへへー」

青空澄「ん…」

深呼吸

青空澄「すーはー」

青空澄「すーはー」

青空澄「ふぅ…」

消え去りそうつぶやき声

青空澄「好きです」

はっきりと

青空澄「好きです」

青空澄「先輩が好きです！」

青空澄「ふあああ」

青空澄「言ってしまいました…あああ」

青空澄「でも、やっと言えました」

青空澄「あ、えへへ、涙が出ちゃってますね」

青空澄「先輩はご迷惑かもしれませんが」

青空澄「どうしてもも気持ちだけでも伝えておきたくて」

青空澄「ご迷惑ですよね…」

しばらく無言の呼吸の間

青空澄「……」

青空澄「……」

青空澄「え？」

青空澄「ほ、本当ですか？」

青空澄「本当に先輩も私のことが好きなんですか」

青空澄「え、どうしよう」

青空澄「やだ、涙が…」

青空澄「あ、止らなくて…」

青空澄「う、う、う…」

青空澄「すん…すん」

青空澄「はい…はい…これからよろしくお願いします」

□青空澄、先輩と青空の下、お弁当デートです

マイクの位置：正面遠く

先輩にかけよります

青空澄「せんぱーい」

マイクの位置：正面。おまかせ

肩で息をします

青空澄「はっ…はっ…はっ…はっ」

青空澄「今日はお誘いいただいて、ありがとうございます」

肩で息

青空澄「はーはー」

青空澄「あ。お弁当崩れてないかな」

【お弁当作ってきてくれたの？】

青空澄「はい…その…いらなかったでしょうか？」

【ありがとう】

でへーとした笑い声

青空澄「えへへ」

青空澄「そ、それじゃあそろそろいきましょうか」

青空澄「あ、あの」

青空澄「その…」

青空澄「て、手をつないでもよろしいでしょうか…」

マイクの位置：右

青空澄「…あ」

青空澄「ん…」

でれっとした笑い声

青空澄「へへぇ」

【歩く音】

青空澄「何だか…その…」

青空澄「えへへ」

青空澄「夢みたいです」

青空澄「へへ」

青空澄「ふへへ」

青空澄「やだ、変な声が…うう、恥ずかしい」

SE:並んで歩く音

暫く一緒に歩きます

青空澄「この公園って、鳥が多いんですね」

青空澄「先輩は鳩に餌あげたことあります？」

青空澄「私、子供のころあげちゃってから…その」

青空澄「あげちゃいけない事を知って…お巡りさんにつかまっちゃうーと思って、泣いちゃいました」

青空澄「おばかな子です」

青空澄「あ…噴水ですよ」

青空澄「涼しげでいいですね～」

青空澄「昔、びしゃびしゃになるまで遊んじゃって…思いっきりママに怒られちゃいました」

青空澄「えへへ」

暫く並んで歩きます

青空澄「あ、あのー」

青空澄「はい！　ではえーっと。このベンチでいいですか？」

青空澄「はい！　お弁当出しますね」

マイクの位置：左

先輩と隣に並びます

青空澄「ちょっと待ってくださいね」

青空澄「どれから食べます？」

青空澄「はい、サラダからですね」

マイクの位置：正面　あーんで10cmから0cmにマイクに近づいてくださいませ

青空澄「あ、あーん」

マイクの位置：正面

先輩と向き合ってお弁当を食べます。

青空澄「わ、わー、えへへー」

青空澄「美味しいですか？　えへへ」

青空澄「次はどれを食べます？」

青空澄「はーい」

青空澄「ふふ」

青空澄「あ、りんごさんですね」

マイクの位置：正面　あーんで　10cmから0cmにマイクに近づいてくださいませ

青空澄「あーん」

青空澄「美味しいですか？　えへへ」

青空澄「よかったです」

青空澄「いい天気ですねー」

青空澄「んー」

青空澄「先輩はわたしとなんかデートして楽しいですか？」

青空澄「す、すいません変なこといっちゃって」

青空澄「私…特に、趣味とか無くて…話題も無くて…つまらないと思われたらどうしようかなって」

【楽しいよ】

青空澄「ほん…とうですか…？」

青空澄「ふふ…やさしいんですね…」

青空澄「私は先輩と一緒にいるだけで…なんだか…うふ」

青空澄「ものすごく嬉しくなっちゃうと言うか…ふふ」

青空澄「あ、次はこれですね」

マイクの位置：正面　あーんで　10cmから0cmにマイクに近づいてくださいませ

青空澄「はい、あーん」

青空澄「…幸せ」

□先輩の部屋に遊びに行きます！（未熟な二人）

シーン：先輩の家

マイクの位置：正面。お任せいたします。

青空澄「きょ今日は先輩の家にお、お、お招きさせていただき誠にありがとうございます！」

青空澄「あれ？　えーと、変な日本語でしたでしょうか」

青空澄「ううーお恥ずかしいです」

青空澄「わーわーこれが先輩の部屋なんですね」

青空澄「素敵です。素敵です」

青空澄「あ、お、お構いなく。はい、お茶でお願いします」

青空澄「……ん」

青空澄「……先輩の部屋だぁ」

青空澄「……あ、先輩のベッド」

青空澄「…うー」

青空澄「すんすん」

青空澄「先輩の…匂い…すんすん」

青空澄「うーーーー」

青空澄「うーーー」

青空澄「もしかして私変態なんでしょうか…」

青空澄「好きな人のベッドに顔を埋めて匂いを嗅ぐなんて

青空澄「すんすん」

青空澄「すんすん」

青空澄「はぁー」

青空澄「すんすん」

青空澄「すんすん」

SE:ガチャ

青空澄「きゃ！」

青空澄「せ、先輩！　お、お早いお帰りで」

青空澄「い、いえ！　何にもしていないですよ？　本当です」

青空澄「えへへ」

青空澄「ふふ、先輩のベッドに座っちゃいました」

青空澄「あ、ありがとうございます。ごくごく」

青空澄「うわ、すっごく美味しいですねこのお茶！」

青空澄「え？　コンビニでかった？」

青空澄「あ、あはは、最近のコンビニのお茶は美味しいんですね」

青空澄「えへへ」

青空澄「ん…」

SE:時計の音

青空澄「ん…」

青空澄「ふぅ…」

青空澄「静かですねーこの家」

青空澄「ん…」

青空澄「ふふ」

青空澄「あ、そう言えばですね」

押し倒される

青空澄「きゃっ！？」

青空澄「え！？　先輩？」

青空澄「え！？　や！　やだ！」

青空澄「あ！　まって！　あ！　ん！　ん！」

青空澄「やめ！　あ！　ん！　だめ！　だめ！」

青空澄「ん！　ん！　んんぅ！　ん！　ん！」

青空澄「怖い！　怖い！　怖いよぅううう！　やぁぁぁぁ」

やめる

青空澄「はー　はー　はー」

青空澄「あ、うう」

青空澄「ぐすん」

青空澄「ひんひん」

【ごめん】

青空澄「い、いえ」

青空澄「す、すいません先輩」

青空澄「私がまだそのお子ちゃまで…うう、なんといいますか」

青空澄「うう」

【触るだけならいい？】

青空澄「え？」

青空澄「うう」

青空澄「さ、触るだけなら…」

青空澄「その…服の上からなら…ちょっとだけならいいです」

青空澄「あ、ほっぺた…先輩の手あったかい…」

青空澄「あ、首筋…ん…あ…」

おっぱいを服の上から触られる

ん　と　んの間は2秒から4秒当たりのゆっくりとした嬌声。……上記のてんてんは吐息が漏れる感じでお願いいたします

青空澄「ん…」

青空澄「ん…ん…ん…」

青空澄「ふぅ…ん…ん」

青空澄「はぁぁ…あ…あ…」

青空澄「ん……ん……ふぅ…」

青空澄「柔らかい…ですか…ありがとうございます」

青空澄「はぁ……ん…はぁ……」

青空澄「はぁ……はぁ……」

青空澄「はぁ……ん…ふぅ…ん」

青空澄「あ…ん…ん…あん…」

青空澄「はぁ…はぁ…あ…はぁ」

青空澄「はぁん！」

青空澄「あ、すいません変な声が出ちゃいました」

青空澄「う、う、両手で…ん…ん…ん」

青空澄「はぁ…ん…ん…ん…はぁん」

青空澄「あ、また…」

青空澄「ん…ん…んんぅ…ん…ん」

青空澄「ん…ふぅ…ん…ん…はぁ」

青空澄「え？」

青空澄「きゃぁ！　服の中に！？　あ！　あ！　はぁ！」
青空澄「ああ…直に…おっぱい！」
青空澄「あ、ああ、先輩…約束が…あ…あ…」
青空澄「あ！　きゃぁ　あ…あ…ああ」
青空澄「あう！　ふああ！　先輩の手のひら全体でおっぱいが直接ぅ！」

未知の感触に戸惑う。先輩のために我慢しようとします

青空澄「あ…ん！　ん…ん　ん…ん　ん…んふ」
青空澄「ん…ん…　ん…　ん　んぅ…　は…　は…」
青空澄「んんぅ…ん…　ん　ん…　ん…　ん　んぅ　んん」
青空澄「んふぅ…ん…ん！　ん…　んん…ん　ん！　ん」

色っぽい吐息が漏れます

青空澄「あはぁん！」

調子にのって乳首を指先で弾く先輩
ここから激しめの嬌声でお願いいたします。感じているところは軽く首を振って動きをつけてくださいませ。

青空澄「くふぅ！？　乳首ぃ！　あ！　はぁぁ！　指先でそんなぁぁ！」

青空澄「弾かないで！　くふぅう！　ん！　んん！　ん！　ん　あ　あ　あ　あ」

青空澄「んん！　おっぱい揉みし抱かれながら乳首弾いちゃやだあ　あ！　あ　あ　あ　あ！　くふぅ！　ん！　ん！　ん！　ん！」

たまらず出る吐息

青空澄「くぅあはぁぁぁん　はぁぁん！」

青空澄「やだ、はしたない…はしたないよぅ…ん！　ん！　んぅ！　んぅ！」

青空澄「ん…ん！　ん　ん…んぅ…ん！　ん…　ん…　ん…」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…あはぁぁ」

我慢できなくなって上半身の服を脱がす先輩

青空澄「やぁぁぁ！　服！　先輩約束がぁ！」

胸にむしゃぶりつく先輩

青空澄「あああ！　おっぱいに直接キスぅ！？　あ！　あ！　ああ」！

青空澄「やぁぁ　駄目！？　先輩！　駄目です本当にだめぇ」

青空澄「ん！　ん！　ん！　ん！　ん！　くふ！　ん！　ん！」

青空澄「舐めないで！　あああ！」

青空澄「あ…あ…あ…あ…あ…あ…ん！　ん！　ん！」

青空澄「あああ…はぁ…あ…あ…あ…んん！　くぅん！」

たまらず出る吐息

青空澄「はぁぁ！　はぁぁん！」

一心不乱に乳首を吸う先輩

青空澄「ん…ん…ん…ふぅぅ…ん…ん…ん…んんぅ」

青空澄「ん！　ん！　んんぅ！　ん…ん…んん！」

青空澄「あ…！　あ…　あ…！　ああ！　ん！　ん！　んんぅ　う　う」

青空澄「駄目…です…本当に…あ…あ…あはぁ」

思わず涙が

青空澄「うう…う…う」

青空澄「うう…うううう…ぐす…ぐす…」

青空澄「うううう…ひぃん…ひん…ひん…やだぁ…こんなのやだぁ」

正気に戻り距離を取る先輩

青空澄「ひっく…ひっく…うぐ…ひっく」

青空澄「いえ…謝らないでください先輩」

青空澄「私がまだ、たぶんお子様なのが悪いんです…ひっく…ひく」

落ち着こうと肩で息をします

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…」

青空澄「ふぅ…はぁ…はぁ…はぁ…はぁ…」

青空澄「今日は…はい…帰ります」

青空澄「失礼します…先輩」

□先輩とお泊まり温泉。足湯で頭なでなで

シーン：民宿の部屋

足湯が部屋の中にあります。
耳掻きと耳舐めがメイン
耳なめは指示がない限りゆっくりとした耳なめでお願いいたします。

マイクの位置：正面。おまかせ

青空澄「先輩、今日もお誘いいただきありがとうございます」

青空澄「えへへ、温泉と聞いてテンション上がっちゃいます」

青空澄「ふわー部屋の中に、足湯があるんですね」

青空澄「入ってみて、いいですか？」

青空澄「ふわー…ぬるっとしてて…気持ちいいです」

青空澄「ゴツゴツした石も…ツボっていうんでしょうか」

青空澄「何だか刺激されて…ふわー」

青空澄「先輩はどうですか？」

青空澄「うふふ、よかったです」

青空澄「え…膝枕？」

青空澄「は、はい、その、私のでよければ」

マイクの位置：右

先輩の左耳が真上に来ます

適当に動きをつけてくださいませす。

青空澄「うぅー　先輩の頭が私の膝の上に」

青空澄「きゃ！　もぞもぞしちゃだめです」

青空澄「もぅー」

青空澄「ふふ」

SE：頭をなでる

青空澄「せーんぱい」

青空澄「あ、頭なでちゃいましたけど…いやじゃないですか？」

青空澄「私、弟がいて…つい…」

青空澄「ふふ」

鼻歌

青空澄「ふんーふんーふんー♪」

青空澄「ふんーふんーふんー♪」

青空澄「あ、先輩…枝毛発見、ふふ」

青空澄「抜いちゃいますか？　えへ」

青空澄「ふんー　ふんー　ふんー　ふんー♪」

青空澄「ふんーふんーふんー♪」

顔を寄せながら

青空澄「あれ…先輩…寝ちゃったのかな」

青空澄「ふふ…かーわいい」

青空澄「ふん…ふんーふんーふん♪」

童謡を歌います。上手に歌う事を意識するより、素人らしくたどたどしいイメージです。
眠りに誘うためゆっくりとした感じでお願いいたします。

青空澄「夕焼小焼の、赤とんぼ」

青空澄「負われて見たのは、いつの日か」

青空澄「山の畑の、桑（くわ）の実を」

青空澄「小籠（こかご）に摘んだは、まぼろしか」

青空澄「十五で姐(ねえ)やは、嫁に行き」

青空澄「お里のたよりも、絶えはてた」

青空澄「夕焼小焼の、赤とんぼ」

青空澄「とまっているよ、竿(さお)の先」

青空澄「ふふ、お母さんになったみたいです」

青空澄「なでーなでーなでーなでー」

青空澄「なでーなでーなでーなでー」

青空澄「せんぱーい…」

小声で

青空澄「せんぱーい…」

ささやき声

青空澄「起きないとキスしちゃいますよー」

マイクの位置：右。0cm

キス

青空澄「ちゅ」

青空澄「わ！　先輩おきてたんですか？」

青空澄「も、もう一曲ってもうもう先輩は意地悪です」

マイクの位置：左

反対を向く

青空澄の膝の上で先輩の右耳が上を向きます。

青空澄「きゃっ！」

青空澄「今度はこっち側ですか？」

青空澄「うう、こっちだと先輩にお腹見られて恥ずかしいですよう」

青空澄「せんぱーい…」

青空澄「うう…解りましたよう」

青空澄「ふふ」

青空澄「先輩のほっぺたーぷにーぷにー」

青空澄「えへへ、赤ちゃんみたいです」

青空澄「よしーよしーよしーよしー」

青空澄「いいこ、いいこ。いいこ、いいこ」

青空澄「え？　もう…うたわないですよーだ」

青空澄「いい…天気ですね…」

青空澄「足湯が流れる音が…気持ちよく」

あくび

青空澄「ふわあ」

青空澄「あ、やだ、わたし」

青空澄「でも、眠たくなっちゃいますね」

青空澄「お湯の音…虫の音…ふふ」

青空澄「なでーなでー　なでー　なでー」

青空澄「なでー　なでー　なでー　なでー」

青空澄「いいこ…いいこ…いいこ…いいこ」

青空澄「ふふ…なでーなでー」

青空澄「ん…ふふ」

青空澄「ほっぺたやわらかい…」

青空澄「はぁ…うっとりしちゃいます」

青空澄「なで…なで…なで…なで」

青空澄「あれ？」

ささやき声

青空澄「せんぱーい…せんぱーい」

青空澄「ふふ、また寝ちゃいました？」

青空澄「じゃあ、また…キスしちゃいます」

青空澄「ちゅ」

□先輩とお泊まり温泉。足湯で耳かき耳舐め

シーン：民宿の部屋

足湯が部屋の中にあります。
耳掻きと耳舐めがメイン
耳なめは指示がない限りゆっくりとした優しい耳舐めでお願いいたします。

マイクの位置：右

青空澄「あ、そうだー」

青空澄「むふー　実は持ってきてたんですよー耳掻きセット」

青空澄「足湯につかりながら耳かきこれって最高じゃないですか？」

青空澄「いきますよー」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

青空澄「むふー　どうですか？　気持ちいいですか？」

青空澄「よかったでーす　かり…かり…かり…かり」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

青空澄「ん…私弟にもやってあげているんですけど…ん…」

青空澄「ん…しょ…とっても気持ちよさそうにしているのを見て…

ん…」

青空澄「先輩にもやってあげたら…ん…喜んでいただけるかなと…ん…しょ」

青空澄「ふふ…数少ない…私の特技です…ん…ん」

青空澄「かり…かり」

青空澄「かり…かり」

青空澄「かわい…」

青空澄「あ、なんでもありません…き、聞かなかったことにしてください」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

鼻歌

青空澄「ふん♪　ふん♪」

青空澄「ふん　ふん　ふん♪」

青空澄「後は…梵天さんでー」

青空澄「こしょーこしょー　こしょーこしょー」

息をかけてくださいませ。

青空澄「一度ふーってしますね。ふぅーーー」

青空澄「ふふ、綺麗になってきました」

【舐めて】

青空澄「え？」

青空澄「え？　ええ？　な、舐めるんですか？」

青空澄「そ、そんなことしていいんですか？」

青空澄「その汚くないんですか？」

青空澄「うう、解りました」

青空澄「そ、それではいきますよ」

青空澄「さ、最初は…キスから…」

青空澄「えーい！　ちゅ！」

青空澄「ん…これでいいんでしょうか」

青空澄「んーちゅ…ちゅ…」

青空澄「ちゅ…ちゅ…ちゅ」

青空澄「はい、甘噛みしたりですね。あむあむ」

青空澄「ちゅ…ふぅ…ん…ちゅ」

青空澄「れぅ…ん…ちゅ…ちゅ」

青空澄「ん…ん…ちゅ…ちゅ」

【そろそろ】

耳たぶや耳の周りを舐めます

青空澄「は、はいでは…舌で」

青空澄「れぅ…れええ」

青空澄「ちゅう…ちう…ん…ちゅ」

青空澄「先輩の耳を…舌でなぞるなんて」

青空澄「いけないことしてる気分です…」

青空澄「れぇれう…ちゅ…ちう…れぅ」

青空澄「はむ…ちゅ…ちゅ…ちう…ちゅ」

青空澄「ちう…ちゅ…ちゅ」

青空澄「ちゅ…ちゅ…ちう…へぅ」

青空澄「ん…ちゅ…ちゅ…れぅ」

【もっと】

ここまでくると耳舐めに夢中になっています

青空澄「はい…もっと奥までですね…れぇぇぇ」

青空澄「ちぅ…ちゅ…ちゅ…ん…ちゅ」

青空澄「あ、何だか先輩がびくびくしてます」

青空澄「 気持ちいいんレフか？　ちゅ…ちぅ…ちゅ…ちぅ」

青空澄「お膝の上でびくびくしている先輩可愛いです…んふ」

青空澄「れぅ…ちゅ…ちぅ…ちゅちゅ…ちぅ」

青空澄「へぅ…ちゅ…ちゅ…ちぅ…ちゅ…ちぅ」

【最後に激しく】

青空澄「はい…最後に思いっきり…じゅるちぅじる！　れうちうちうちぅ！　ちゅちぅ…ちぅれうちうちぅ！」

マイクの位置：右0cmでの吐息

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…ん…はぁ」

青空澄「どうでした？」

青空澄「ふふ、最後にふきふきいたしますね」

青空澄「それじゃあ反対になってください」

マイクの位置：左

青空澄「まずは耳掻きから」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

青空澄「あ、今気がついたんですが…足湯の匂い…」

青空澄「とおってもいい香りがするんですね」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

青空澄「ふふ…」

青空澄「痒いところはないですかー？」

青空澄「むふふーこれじゃ散髪屋さんですね」

鼻歌

青空澄「ふーん…ふん…ふん…ふん」

青空澄「ふーん…んー　ふーん　ふーん♪」

青空澄「ふふんー　ふん　ふん　ふーん」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

青空澄「ふふ…」

青空澄「すっごく…幸せ…」

青空澄「かり…かり…かり…かり」

青空澄「梵天でーこしょこしょこしょこしょー」

青空澄「ふふ、こしょこしょこしょこしょー」

【そろそろ】

青空澄「あ、はい」

青空澄「では、お耳に失礼いたしまして」

青空澄「んーちゅ」

青空澄「ちゅ…ちう」

青空澄「へぅ…ちう…ちゅ」

青空澄「みみたぶこうらって…唇ではさんであむあむ」

青空澄「やっぱりこれ好きなんですね…あむあむ」

青空澄「ふふ、気持ちいいとすぐ先輩びくびくしてわかっちゃいます」

青空澄「へぅ…ちゅ…ちう…ちう…ん…ちゅ」

青空澄「あ、私の髪くすぐったくないですか？」

青空澄「ちゅ…ちう…れぇぇ…ちゅ…ちう」

青空澄「ちゅ…ん…ちゅ…ちゅぅ…ちう」

青空澄「耳たぶってちょっとぐみみたいれふね…ちゅ…あむ…あむ…ちゅ…あむ…ん…ちう」

青空澄「ん…舌を奥まで差し入れまふね…ちゅちう…ちう」

青空澄「れぇえれぇぇん…ちう…ちゅ…ちうちう…ちゅ」

青空澄「先輩…先輩…ちゅ…ちう」

青空澄「はぁ…ちゅ…ちゅ…ちう…ちゅ」

青空澄「れぅ…ちゅ…ちゅぅ…ちう…れうれぅ…ちうちゅ…ちゅ」

【最後に激しく】

青空澄「はい、最後に思いっきりですね。じるちゅうちう！　ちゅちゅ！　ちうちう！　れうちう！　ちゅうちう！　ん！　ん！　ん！　ん！　ん！　ちうぅ！　んん！」

マイクの位置：左0cmでの吐息

青空澄「んはぁ…はぁ…はぁ…はぁ…はぁ」

青空澄「ふぅー　最後にふきふきー　ふきふきー」

青空澄「どうでした？　気持ちよかったですか？」

青空澄「えへーうれしいです」

シーン：夜の宿。室内
青空澄とのエッチシーンその一になります
可愛らしく時に激しい演技でリスナー様を魅了してくださいませ。

寝息。4秒に一回がぐらいの穏やかなペース

マイクの位置：左

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「ん…ふぅ…すー　すー　すー」

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「すーすー　すーすー」

青空澄「すーすー　すーすー」

マイクの位置：正面

青空澄「ん…」

青空澄「先輩…起きています？」

青空澄「起きていますよね？」

マイクの位置：右左cm

ささやき声

青空澄「…しないんですか？」

【でも】

マイクの位置：正面左

青空澄「その…あの…」

青空澄「今日の…お泊りデートの時点でその…」

青空澄「私もちょっと…心構え…できちゃってます」

青空澄「先日は…その…ご迷惑をおかけいたしましたので」

青空澄「ちょっと今日は…」

溜めながら

青空澄「…ん…その…頑張ってみようかなと」

青空澄「うう…誘っているみたいで恥ずかしいです…顔…隠しちゃ

います…ふみゅぅ」

覆いかぶされる

マイクの位置：左

先輩に抱きしめられ、先輩の頭が肩の位置です。

青空澄「あ……」

青空澄「先輩…」

青空澄「先輩…もっとぎゅっとしてください…」

青空澄「はい…聞かなくていいです…キスして…」

マイクの位置：正面

キス

青空澄「ん…ちゅ」

青空澄「ちゅ」

青空澄「ちゅ…」

青空澄「えへへ…先輩とキスしちゃいました」

青空澄「うーなんでしょこれ…恥ずかしいのか嬉しいのかわからないです…うう」

青空澄「あ、はいもう一度ですね」

青空澄「ちゅ」

青空澄「ちゅ」

青空澄「幸せ」

青空澄「はぁ…ちゅ」

青空澄「ちゅ…んちゅ」

青空澄「ちゅ」

舌を入れられる

青空澄「んんんぅ！？」

青空澄「れぅちうちゅ」

青空澄「ちるちう」

青空澄「ちゅうちう」

青空澄「あ…あ…」

青空澄「先輩の舌が…れぅちう…ちゅ…ちう」

青空澄「へぅ…舐められちゃってます…舐められちゃってますよう…れぅちう…じゅる…ちう」

【甘い】

青空澄「甘いなん…て、嘘です…よう…れうちう…じるちゅう…ちゅちゅ」

青空澄「ん…ちゅ…ちう…ちゅ」

青空澄「くふぅ！　ぞくぞくしまふ…ちゅ…ちうれう…ぞくぞくしま…れぅれぅ」

青空澄「はぁ！　はぁ！　舌をなめられているだけなのに…ちゅ…ちう…れぅ」

青空澄「全身がぴりぴりって！　へぅ！　れぅ…れぅちゅ…ちう」

青空澄「あ…ちゅ…じる…ん！　ん！　ん！」

青空澄「先輩の舌が奥まれぇ！　ん！　んふぅ！　じる！　ちゅぅ！」

青空澄「へぅ！　青空澄のお口の中全部先輩の舌が！　んふ！　じる！　じゅる！　じる！　ちゅうう！」

青空澄「ん！　ん！　ちゅぅ！　じる！　ちぅ！　ちゅ！　ちぅ！　ちゅぅ！」

マイクの位置：正面0cmで吐息

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…はぁ…」

マイクの位置：正面

青空澄「先輩…先輩…」

青空澄「あ、はい…触っても…大丈夫です…今日は…おっぱい」

胸を服の上から触られる

嬌声はなるべく0cmで揺らぎながら甘い吐息をかけてくださいませ。

青空澄「ん…　んふ…」

青空澄「ん…ん…ふ…」

青空澄「あ…ん…ん…」

青空澄「あ…ん…ん…はぁ…」

青空澄「なんだかおっぱい求める赤ちゃんみたいですね、ふふ」

青空澄「あふ」

青空澄「ふぅ…ん…ん…はぁ…あ…はぁ…あ」

青空澄「あ、また乳首！　ん！　ん！　ん！　んふ！」

青空澄「どうして服の上から解るんですか？　んふぅ！」

青空澄「ん！　ん…ん…　ん…ん　んん！　ふぅぅ！」

青空澄「はぁ！　はぁ！　人差し指で円を描いたりつっついたり遊ばないでくださいよぅ！　やん！　やん！　ん！　くふ！　ん！　ん！　ん！」

青空澄「んふ…あは…あ…あん…あ…あは…」

青空澄「はぁ…はぁ…」

【脱がしていい？】

青空澄「…はい」

青空澄「優しく…脱がしてください…」

青空澄「あ…」

青空澄「薄暗いけど…見えちゃってますか…わたしの…おっぱい？」

【うん】

消え去りそうな声で

青空澄「うう…やっぱり…恥ずかしい」

青空澄「あ…直接…ん…ん」

青空澄彩夢ひな

青空澄「ん…ん…んぅ…ん…は…ん…ん」

青空澄「うう…優しくさわさわしたり…お餅みたいに揉んだり…くふ」！

青空澄「どうしていつも私がしてる事…あ、いえなんでもありま…ふぅぅ！」

青空澄「ん…ん！　ん…は…」

青空澄「あ…　は…　あ…　あ…ああ…」

青空澄「ああ…はぁ…あ…ん…ん…ふぅ…ん…あはぁ」

青空澄「ひぅ！」

青空澄「あ、大丈夫です…今日はその大丈夫ですから…」

ふにゃふにゃに恥ずかしそうになりながら

青空澄「乳首吸ってください…ひぃん！」

青空澄「ん…ん…あ…は…」

青空澄「ん…ん…んふぅ！」

青空澄「ん…ん…あ…あ…ん」

青空澄「はぁぁ！」

青空澄「ん…ん！　んん！」

青空澄「ん…くふぅ！」

青空澄「ん…ん…ん…」

青空澄「はぁ…あ…はぁ…あ…」

青空澄「ひゃん！」

青空澄「乳首に歯を当てちゃ！　ひぃぃ！」

青空澄「先っぽが、ああ！　じんじんしますょう！　ん！　ん！
くふぅ！」

青空澄「かじったり…舐めたり…んん！　かじったり…舐めたり…
ああああ」

青空澄「ああああ、赤ちゃんみたいに音をたてて」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…はぁ」

青空澄「あ…あ…はぁ…はぁ…はぁ！」

青空澄「あ…あ…ああ…ああ…はぁ…あん…」

青空澄「ひときわ強く吸われる」

青空澄「きゅぅん！」

青空澄「は…は…は…は…」

名残惜しそうに

青空澄「あの…もうお仕舞いでしょうか？」

青空澄「あ…下…あ…」

青空澄「うう…見られちゃってます…」

青空澄「お尻も…ぱんつも…全部…」

マイクの位置：正面。おまかせ

ここから先輩は下半身を愛撫し始めますので、適度にマイクの位置を下にお願いいたします

青空澄「あ…ぱんつに息が…んん！」

青空澄「あ…きす…あ…あ…」

青空澄「お尻ぃ！　ふぅぅ！」

青空澄「あはぁ！　お尻ぱんつの上から…んんん！」

青空澄「は…は…は…は…は」

青空澄「さわさわってされるだけでぇ！！　は…は…は…は！」

青空澄「お尻揉まれながら…はぁぁ…先輩の息が…あ…あ！」

青空澄「そんなおまたに顔…ふぅぅ！　ふぅぅ！」

青空澄「あ、脱がされ…」

脱がされている恥ずかしさを我慢している様子

青空澄「んーーーっ！」

【開いて】

青空澄「だ、駄目です…駄目です」

青空澄「そんな足を開くなんて絶対にできませんよう」

マイクの位置：セリフの途中で、正面から真後ろを向いてください

後ろから愛撫する先輩のパートになります。

青空澄「え？　こ、こうですか？　うつ伏せになるんですね」

うつ伏せになりしばらく先輩の行動を吐息を吐きながら待つ青空澄

青空澄「ん…」

青空澄「は…あ…」

青空澄「ふぅ…ん…」

青空澄「は…あ…」

青空澄「う…ん…」

青空澄「先輩？　それからどうすれば」

青空澄「きゃぁーーーー！」

青空澄「いきなり先輩！　パンツ脱がすなんてぇぇぇ！」

青空澄「ふあぁ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あはぁ！」

青空澄「お尻にキスぅ！？　あはぁぁ！　あ…あ…あああ…ああ」

青空澄「やぁ！　やぁ！　お尻舐めてるぅ！　舐めてるぅ！　こんなの…こんなの変態です！」

青空澄「あ…あーーー！　は！　あ…あ…あ…ああ…あ…ああ」

【駄目？】

青空澄「駄目…じゃないですけど駄目じゃないですけどぉ！」

青空澄「ん…ん！　ん…ん…　ん！　んん…ん…ん…んはぁ！」

青空澄「お尻全部キスされて…ん！　ん！　ん！　んん！　ん！」

青空澄「は　あ…はぁ…あ…あ…あ…ん…ん…ん…ん…」

青空澄「はぁ…はぁ…あ…あ…あ…あ…ん…」

青空澄「あ…あ…くすぐったいよぅ…ん…ん…ん」

青空澄「あ…は…あ…あ…はぁ…あ…あ…」

【気持ちいい？】

青空澄「あ、はい…だんだん慣れて…ちょっと気持ちよく…」

青空澄「何を言わすんですかもぅーもぅー　んんん！」

青空澄「んん…ん…ん…はぁ…ん…ん…ん…はぁ…」

青空澄「青空澄（あすみ）のぷにぷにのお尻大好きって言われても解んないですよぅ…んふぅ…ん」

青空澄「お尻さわさわされるとぞくってします…ん…ふぅ…ふぅ…はぁ…はぁ」

青空澄「ひぅ！」

青空澄「お尻の割れ目に先輩の舌が！　あああ！」

青空澄「んんぅ！」

青空澄「ん…んん！　は！ぁぁ　ああ！　あ！　ああ…あ！　あ！」

青空澄「ああ！　あ…あ！　あ…あ！　あ！　ああ！　あああ！」

青空澄「ふぅぅ！　そんな奥まで　ああ！　ん！　ん！　んん！

ん！　んんんーーー！」

青空澄「気持ちいいなんて解んないですよう！　ん！ん！ん！ん！ん！　ん！　んん！　ん！」

青空澄「ひぅ！」

ひときわ強く

青空澄「そこ！」

ひときわ強く

青空澄「あ！　だめ！」

青空澄「うう！　うう！　ふぅぅー！　あ！　あ！　あ！」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…はぁ」

青空澄「だめ！　だめぇ！　だめぇ！　先輩やめて！　やめて！」

肩で息。

青空澄「は…は…はぁ…は…は…はぁ…」

【またやな事しちゃった？】

マイクの位置：正面

青空澄「あ、いえ、その…嫌とかじゃ無くて…あの…」

青空澄「も、漏らしかけてしまい…うううう」

□初めての夜…初えっち

シーン：夜の宿。室内
青空澄とのエッチシーンその二になります
可愛らしく時に激しい演技でリスナー様を魅了してくださいませ。

SE：トイレを流す音
SE：歩く音

マイクの位置：正面30cmから10cmまで近づきながら

青空澄「先輩ーすいません…お待たせいたしました」

マイクの位置：正面10cm

青空澄「うぅー　まだまだおこちゃまで…」

マイクの位置：正面。真後ろを向いてくださいませ。

青空澄「あ…背中からぎゅっと抱きしめられちゃいました」

青空澄「ん…」

青空澄「ふ…」

青空澄「これ…何だか好きです」

青空澄「背中に先輩を感じられて…ふふ…あったかい」

青空澄「ん」

青空澄「ん」

青空澄「あ」

青空澄「先輩…本当におっぱい好きですね」

青空澄「んんぅ…」

青空澄「ん…」

青空澄「ん…」

青空澄「はあ…」

ちょっとあきれと感じてる様子を混じっています

青空澄「いいですよもう、ふぅ…好きなだけ触って…はぁ」

青空澄「あ」

青空澄「はぁぁ」

青空澄「ああ」

青空澄「ん…ふぅ」

青空澄「ん…ん…ん」

青空澄「ああ…は…あ…」

青空澄「あれ？」

青空澄「何か先輩腰に入れています？」

青空澄「え？　これって」

青空澄「あ」

青空澄「す、すいません…あれですよね

青空澄「ん…」

SE：ごそごそ音

青空澄「わ」

青空澄「熱い…」

青空澄「す、すいません…触っちゃいました」

青空澄「服の上からでも…すごい…熱い」

青空澄「せ、先輩の…さ、触っちゃってます触っちゃってますよう…」

青空澄「わ…あ…あ」

青空澄「あの…」

青空澄「その…」

マイクの位置：右0cm

小声で

青空澄「見せてもらってもいいですか…」

【え？】

消え去りそうな声で

青空澄「もう…うう…だから…その…」

ささやき声

青空澄「先輩のおちんちん」

青空澄「はい…ありがとうございます」

マイクの位置：正面

青空澄「わ…」

青空澄「あ…」

青空澄「あ…」

青空澄「す、すいません思わず頭の中が真っ白に」

青空澄「ん…」

青空澄「ごく」

青空澄「な、生唾なんて飲んでません！」

【舐めてもらっていい？】

青空澄「え」

青空澄「舐めてもいいんですか？」

青空澄「いえ、おほん、こほん、舐めるんですね」

マイクの位置：ここからふぇらの位置

青空澄「う…わ…」

無意識に小声で無声でおちんちんとつぶやきます

青空澄「おちんちん…おちんちんだ…」

青空澄「ちゅ」

青空澄「き、キスしちゃいました、キスしちゃいました。先輩のおちんちんに」

青空澄「ひょっとして青空澄（あすみ）、凄いことをしているのでは」

青空澄「は、はい続けますね」

２秒から４秒に一回ぐらいのキス音。初々しく唇を触れさせます

青空澄「ちゅ…ちゅ」

青空澄「ん…ちゅ」

青空澄「ちゅ」

青空澄「ちゅちゅ」

青空澄「んーちゅ」

青空澄「わわ、唇が凄く熱いです」

青空澄「ちゅ…ちゅ」

青空澄「でも大好きな先輩のおちんちん…ちゅ…ちゅ」

青空澄「はぁ…ちゅ」

青空澄「とっても愛おしいです…ちゅ」

青空澄「ちゅ…ちゅ」

うっとりした様子

青空澄「はぁぁ…はぁ…」

青空澄「ちゅ…ちう」

【そろそろ】

青空澄「あ、はい…じゃあ…な、舐めちゃいますね」

青空澄「れぅ！」

青空澄「えぅ…」

青空澄「ん…ちょっとしょっぱいんれふね…れぇ」

青空澄「舌で…れーーちう」

息を吐き出す

青空澄「ふー」

青空澄「んーちゅ」

青空澄「れう…ちゅ」

青空澄「ちうちう…れちゅ」

青空澄「ちゅ…ん…ちゅ…ちゅちう」

青空澄「んん…ちゅ…ちうれぅ…ちゅ」

青空澄「れぅ…ちゅ…ちゅ…ちう…ちゅ」

青空澄「んふ…ちゅ…ちう…ちうちう…れぅれぅ」

青空澄「せ、先輩…先輩…ちゅちう…そんな切なそうな顔…ちゅう…ちう」

青空澄「はぁ…れぅれぅ…ちうちう」

すいっちがはいってとってもえっちな気分になった青空澄です

青空澄「もう、全部…食べちゃって…いいですよね…」

青空澄「あー！　ちゅう」

青空澄「ん…ん…」

青空澄「ちう…じる…ちゅ…ちゅ…ちゅ」

青空澄「れう…ちゅ…ちうちう…じゅる」

青空澄「はぁぁ先輩が先輩が！　ちうじるちゅうちゅう」

青空澄「そんな顔されるともっともっと気持ちよくなって欲しいですよぅ！」

青空澄「ちゅるちう…じるちう…ちゅ…ちう…ちうじる…ちう」

青空澄「ん！　ん！　ちゅる…ちう…ちうちう…じる！　ちゅ！」

青空澄「え？　でちゃう？でちゃうんですか！？　やった！」

青空澄「んん！　らしてくらさい…らしてくらさぃ！」

青空澄「ちゅ…ちゅ…ちう…じるじゅる…ちう…ちう…じる…ちう」！

青空澄「ん！　ん！　じゅるじゅ！　ちう！　ちうちう！　じるちう！　ちゅ！　ちう！　ちう！」

青空澄「んんぐぅ！？」

青空澄「けふ！　けふ！　こほっ！　こほっ！」

【大丈夫？】

青空澄「だ、大丈夫です」

青空澄「あ…白い…これが…せーし…ふわ…」

青空澄「あ…変なにおい…どろっとして…わ…わ」

青空澄「ん…ちう…ちゅ」

青空澄「うわ…にが…」

青空澄「あ！　お、美味しいです！」

【無理しなくていいよ】

青空澄「…はい」

青空澄「本当はあまりおいしくないです…うう」

マイクの位置：右
頭は先輩の肩の位置

青空澄「わ」

青空澄「ぎゅっと抱きしめられちゃいました」

青空澄「あ…先輩…」

青空澄「好き好き」

マイクの位置：正面。唇と顔中にいちゃつきのキス

青空澄「ちゅ」

青空澄「ちゅ…ちう」

青空澄「ちゅ…ちゅ」

青空澄「好き…ちゅ」

青空澄「ん…ちゅ」

青空澄「ちゅう…ちう」

青空澄「ん…ちゅ」

青空澄「大好きです…ちゅ…ちゅ」

マイクの位置：正面

青空澄「えへへ」

青空澄「…はい」

青空澄「初めてですので泣いちゃうかもしれませんが」

青空澄「えへへ、我慢します」

【やめる？】

青空澄「いえ、したいんです」

青空澄「先輩と…したいんです」

青空澄「だから…その…」

おまんこは消え去りそうな声で

青空澄「先輩のおちんちん…青空澄のおまんこに…」

青空澄「ください…」

青空澄「ん！」

青空澄「んんん！」

青空澄「あ…すいませんなかなか入らなくて」

ゆっくりとした深呼吸

青空澄「すーはーすーはー」

青空澄「あ…」

青空澄「そこ…」

青空澄「先輩…」

青空澄「キスして…」

キスしながらの挿入

青空澄「ちうちう…んーーーーーーーーー！」

青空澄「いった！　いた…」

青空澄「いったぁ……」

青空澄「すいません…やっぱり…泣いちゃいました」

青空澄「う…う…うう…ん…」

青空澄「あ…う…ん…うう…うう…」

青空澄「つ、つらいですよね確か男の人って」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…」

【動いてもいい？】

青空澄「あ、はい…ゆっくりなら…たぶん…」

引き抜かれる

青空澄「ひぃぃぃ！」

青空澄「あ、だ、大丈夫です。大丈夫です」

青空澄「もう一度入れてください」

入れられる

青空澄「んぅぅぅぅ！」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…」

引き抜かれる

青空澄「んーーー！」

青空澄「はぁはぁ」

入れられる

青空澄「んーーーーー！」

青空澄「はぁ…はぁ」

青空澄「んー！」

青空澄「んー！」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…」

青空澄「大丈夫…ですから…先輩気持ちよくなって？」

ゆっくりとしたピストンを始めます

青空澄「ん！　ん！　んぅ！　んぐぅ！」

青空澄「だ、大丈夫です…優しく動かしてもらってるの解ります」

青空澄「んっくぅ！」

青空澄「んん！　ん！　ん！　ん！」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…はぁ」

青空澄「きす…したら痛いのましになるかもしれません…ん…ちゅ…ちうれうちう」

ここからキスしながら痛みをこらえた嬌声です

青空澄「んん！　ちう…ん！　ん！　ん！」

青空澄「あ！　ちゅ…ちう　ん！　ん！　ん！」

青空澄「はぁ　はぁ…あ…あ　あ」

青空澄「ん…ちゅ…ちう…ん！　ちゅ…ちう…ん！　ん！　ん！」

青空澄「ちゅ…ちう…ん！　ちゅ…ちう　ん！　んふ　んん」

青空澄「ちゅ…ちゅぅ…ん…ちゅ…ちう…　ちゅ…ちう　ん！　ん　ん！　んふ　んん」

だんだん気持ちよく

青空澄「ん…ん…ん…ん…ん…ん…ん…」

青空澄「ん…ん…ん…ん…ん…ん…ん！　ん！　んん！」

のけぞりながら、たまらず漏れる吐息

青空澄「はぁぁぁ！　あ…あ…」

青空澄「はぁぁぁん！」

青空澄「あ…あ…あ…あ…ああ…はぁ…あ」

青空澄「あ…あ…あ…あは…は…は…は」

青空澄「あ…あ…あ！　あ！　あ！　あ！」

青空澄「あ…あ…あ…はぁ　はぁ　はぁ　はぁ！」

青空澄「き、き…」

青空澄「気持ちいいぃぃ！　はぁぁん！」

青空澄「あ…あ！　あ！　あ！　あ！　あぁ！」

青空澄「あはぁ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あぁぁ！」

青空澄「んんぅ！　おててぎゅって握らされると…ん　ん　ん」

青空澄「気持ちいいんですぅ！」

青空澄「んんん！　キスされながら…れうちゅちうじる…ん！　ん！　ん！　おちんちん…ん！　ちう…」

青空澄「はぁぁ！　ぎもちいいんですぅぅぅぅ！」

青空澄「あああ！　初めてなのに！　初めてなのに！　ん…ん！　ん！　ん！」

青空澄「青空澄は…青空澄はぁ！　あ…はぁ　はぁ　はぁ　はぁ！」

青空澄「こんなエッチな声ぇ！　出ちゃってます！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！」

青空澄「あはぁ！　おっぱいにまたきすぅ！　ん！　ん！　んぅ！　ん！　ん！　ん！　はぁ！　はぁ！」

青空澄「あ…あ…あ…あ…あ…あ…あ！　あ！　あ！」

青空澄「それもぅ！　青空澄は！　青空澄は！　はぁぁぁ！」

青空澄「おっぱいぎゅっとされながら、あはぁ！　先輩のおちんちん青空澄のおまた擦ってるの！　あ！　あ！　あ！」

青空澄「はぁ！　はぁ！　はぁ！　はぁ！　はぁぁあん」

狂おしく頭を左右に

青空澄「ひぃぃ！　奥ぐにぐにって　ぐにぐにって！　あああああ！　はぁぁぁあ！」

青空澄「はぁ！　は！　はぁ！　はぁ！　あ！　はぁ！　あ！　あ！　あ！　はぁぁ！」

青空澄「あぅ…！　あぅ！　気持ちいい！　気持ちいい！　あ！　あ！　はぁ！　あ！　はぁ！　はぁ！　はぁ！　あ！」

【そろそろ】

青空澄「はい…はい！」

青空澄「きてください！　きてください！…青空澄の中にきてぇ！」

絶頂に至るピストンです。セリフにとらわれず自然な感じでお願いいたします

青空澄「んんぅ！」

青空澄「ん！ん！ん！ん！ん！ん！くふ！　ん！　ん！　ん
んん！」

青空澄「はぁぁ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！
あ！　あ！　あ！」

青空澄「あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！　あ！
あ！　あ！　はぁぁ！」

青空澄「あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！」

青空澄「あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！あ！」

絶頂

青空澄「あ！　あ！　は！　あああああーーーーーー！！！！」

青空澄「あ、あ、あ…あ…あ…　、あ…、あ…ああ…」

クールダウン。肩で息

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ…はぁ…あ…あ」

青空澄「はぁ…はぁ…あ…はぁ…はぁ」

青空澄「青空澄の…おまんこ…あ…先輩ので…どろどろ…ぐちゅぐ
ちゅにされちゃいました」

青空澄「もう…こんなの…ゴムつけなきゃだめなのに…こんなの…」

青空澄「ああ…中がトロトロ…熱いですよぅ熱いですよぅ…青空澄のおまんこ…じわってしちゃってますよう…はぁ…はぁ」

青空澄「青空澄をこんなふうにしちゃって…どうするんですかぁもぅ　先輩ぃー」

青空澄「はぁ…はぁ…はぁ」

青空澄「先輩…先輩…」

青空澄「ちゅ…ちゅ…ちゅ…ちゅ…んーちゅ…ちゅ…ちゅ」

青空澄「好き好きぃ…ちゅ」

□先輩とお風呂

シーン説明
お風呂

前半は頭を洗います
後半は乳房を吸われながら頭を洗います

SE：シャワーの音
SE：シャンプーを出す音
SE：頭を洗う音

先輩の後方から頭を洗うシーンです。

指示が無いところでは適度に左右に動かしてくださいませ。

マイクの位置：後ろ

青空澄「ふん…ふん…ふんー♪」

青空澄「ふん…ふん…ふんー♪」

マイクの位置：後ろ右

青空澄「痒いところはないですか？」

マイクの位置：後ろ

青空澄「なんちゃって、えへへ」

青空澄「男の人の髪ってやっぱりちょっと太いんですね」

青空澄「ふん…ふん…ふん…ふん」

青空澄「ふんーふんーふんーふん♪」

青空澄「力加減…こんなものでいいでしょうか？」

青空澄「ふふ、よかったです」

青空澄「わしわし…わしわし」

青空澄「わしわし…わしわし」

青空澄「ふん…ふん…ふん…ふん♪」

マイクの位置：後ろ右

青空澄「こっちのお耳回りもー　ごしごし、ごしごし」

青空澄「ふん…ふん…ふん…ふん♪」

マイクの位置：後ろ左

青空澄「反対のお耳回りもー　ごしごし、ごしごし」

青空澄「あわあわー　ふふ。ふん…ふん…ふん♪」

マイクの位置：後ろ

青空澄「え？」

青空澄「え、おっぱいが吸いたいって、でも頭…」

青空澄「うう、すぐ吸いたいって先輩は変態ですかぁー」

青空澄「う、う…じゃあ、こっち向いてください…」

マイクの位置：正面。嬌声はなるべく0cmで甘い吐息をかけてくださいませ。

先輩に乳房を吸わせたまま頭を洗います

嬌声に合わせて適度に揺らしてくださいませ。

青空澄「ひゃあん！」

青空澄「ああ！　ちょっと先輩！　どんだけ吸いたかったんですか！」

青空澄「あ、あん…はぁん…ん…ん…」

青空澄「わし…わし…わし…わし」

青空澄「わし…わし…わし…わし」

青空澄「うう…はぁん…わし…わし」

青空澄「ん…ん…んんぅ…ん…ん」

もう片方のおっぱいも突然触られる

青空澄「は！　はぁぁぁ！」

青空澄「両方同時になんてぇ！　あん！　乳首、弄(いじ)らないでぇ！

青空澄「ん！　ん！　はぁん！」

青空澄「その舐め方…えっちぃ…」

青空澄「う、うう…うううー　はぁ…はぁ…はぁ…はぁ」

青空澄「わし…わし…ん…ん…はぁ…わし…わし」

青空澄「うまく洗えないよぅ…あ…あ…ふぅう」

青空澄「ん…ううん…ん…んん…は…はぁ…」

青空澄「あ…はぁ…あ…あ…ん！　…！　…！」

青空澄「も、もう先輩…頭流しますよ？」

青空澄「あ…あん…あん！　もっとこうしていたいだなんて…あ…あ…ああ」

青空澄「わし…わし…わし…あ…あ…あはぁ…あああ」

青空澄「はぁ…はぁ！　はぁ…はぁ！　はぁ！」

青空澄「先輩…先輩…あ…あ…はぁ…はぁ…はぁ…」

青空澄「もう、青空澄は…青空澄はぁ！　ああ！」

先輩の眼にシャンプーが入る

青空澄「あ、もう」

青空澄「だから言ったんですよぅ」

青空澄「はいはい、シャワーで流しちゃいますね。お目目（めめ）いたいですね」

青空澄「しゃわー　しゃわ　しゃわー　しゃわー」

青空澄「痛いの治りましたか？」

青空澄「えへへ、良かったです」

□えぴろーぐ

シーン：宿の朝

SE：鳥の声

マイクの位置：正面

青空澄「先輩…せんぱぁーい」

青空澄「あさですよー」

青空澄「起きてくださーい」

青空澄「そうですよ、もう宿から出ないと怒られちゃいますよ」

【服着てる】

青空澄「え？　そ、それはもう朝ですから…服着てますよぅ」

青空澄「先輩ったら…お風呂から上がった後も…その…し、しちゃうんですから…も、もう」

マイクの位置：右　耳元

青空澄「えっちー」

マイクの位置：正面

青空澄「ふふ」

マイクの位置：右　耳元

青空澄「えっち」

マイクの位置：正面

青空澄「さあ、起きてください」

青空澄「まだ家に帰るまでデートは続くんですからね」

マイクの位置：右　ほっぺ

青空澄「お目覚めの…ちゅ」

青空澄「幸せ」

おわり

□BGV

先輩から青空澄（あすみ）ちゃんへのキス音をお願いいたします。
先輩からのキス音なので吐息などは入れないでくださいませ。

軽めのキス音　おおよそ30秒ほど

青空澄「ちゅ…ちゅちう…ちゅ…ちう…ちゅ…ちゅ…ちう…ちゅ…ちゅ」
青空澄「ちゅ…ちう…ちゅ…ちゅ…ちゅ…ちゅ……ちぃ…ちゅ」
青空澄「ちゅ…ちう…ちゅ…ちゅちゅ…ちう…ちう…ちゅ…ちゅ…ちう」

激しめのキス音　おおよそ30秒ほど

青空澄「ちうちう！　じる！　ちゅぅ！　ちゅぅ！　ちうじる！ちゅ！」
青空澄「ちゅ…ちう…ちゅ…じるちう！　ちゅうちゅ！　ちゅうちゅちう！」
青空澄「ちうちう！　じる！　じゅる　ちゅぅ！　ちうちう！　ちう！」